

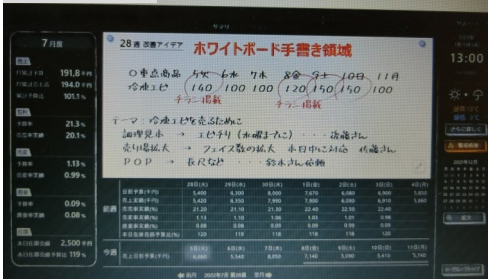
イオンリテール(株)は、同社が推進するデジタルトランスフォーメーション(DX)の一環となる「従業員体験価値(EX)」向上のため、「イオン」「イオンスタイル」約350店舗(関東・北陸信越・東海・近畿・中四国の店舗で一部店舗を除く)で「AIワーク」と「MaI(マイボード)」を7月より順次展開する。

「AIワーク」はパナソニック コネクト(株)のSaaS型業務アプリケーション「CYTIS Shift(サイティス シフト)for Retail」をカスタマイズし、「MaIボード」は同社のデジタルサイネージソリューション「Acrosign(アクロサイン)」の技術をベースに共同設計・開発したデジタルコミュニケーションボードとなる。

一方、「MaIボード」は、連絡ノートや掲示板などに替わり、デジタルサイネージでチーム内の情報共有を行うツール。画面で業務連絡、作業指示が確認でき、コミュニケーションをより円滑にする。



ミーティング画面



イオンリテール 従業員12万人の働き方が変わる 「従業員体験価値(EX)」向上 システム・バックルーム改革へ

「AIワーク」はチームの勤務計画を自動で起案するシステムで、従業員の計画業務時間を低減するほか、勤務希望の提出と勤務シフト確認を携帯端末からいつでも行える。まず、一人ひとりの勤務パターンや職能をデータ化することで、チームの課題を店舗・本部スタッフ双方が容易に確認でき、補充人員の確保や技能教育などを、よりスムーズに行える。

2022年6月に約60店舗で試験導入した結果、利用部門の勤務計画作成時間が70%低減されたほか、勤務希望の申請、勤務計画の確認を携帯端末上で行えるようになったため、勤務計画に関



わる紙の使用量を90%削減している。デリカ、食品オペレーションでは7月に運用開始。今後、食品全部門とH&BCへ拡大予定。

また、営業数値やチラシ情報のほか、近隣店舗との比較、好調商品など、「改善のヒント」となる情報も常時更新される。こうした情報をミーティングで共有することで、チームメンバーから改善プランが生まれやすくなり、自分たちで考えたプランが成果に結びつくと、「やりがい」にもつながることを期待している。7月25日現在、240店舗で導入し、順次拡大予定。

今後は、「AIワーク」では、予測精度の高い計画をAIが起案することで、ムダ・ムリ・ムラの少ない適切な人員配置に近づけ、生産性の高い環境へと導く。さらに、「MaIボード」によって、チームでの改善活動が促進されることで、働きがいを感じられる職場を目指す。

イオンリテールがデジタルを活用した「従業員体験価値(EX)」の向上で目指す姿は、「単なる省力化や省人化ではなく、一人ひとりが後方業務や単純作業に縛られない『より働きがいのある』職場の実現と顧客への提供価値の向上にある」としている。

